

平成 28 年度国立公園満喫プロジェクト 第 1 回霧島錦江湾地域協議会
議事要旨

1. 日時：平成 28 年 9 月 8 日（木）9：00～10：30
2. 場所：ホテル京セラ 別館 2 階 フラワー（会議室）
3. 出席者：別紙のとおり

4. 議事

■開会

○宮崎県環境森林部長 挨拶

- ・この協議会では、霧島錦江湾国立公園の世界水準のナショナルパークへと改変していく具体的なステップアッププログラムを作成し、外国人の観光客を惹きつける戦略について協議していくということになっている。このステップアッププログラムの策定については、国立公園内部の改革のみならず、公園までのアクセスルートの整備や、民間の力をいいただきながら進めていくことが必要なため、民間の方々にも構成員としてご参加いただいている。
- ・霧島錦江湾国立公園はこれまでににおいても、多くの観光客が訪れている名所ではあるが、この事業が実施されることで、一層の整備が進み世界にも広く発信され、国内観光客のみならずインバウンドが増加することで、霧島地域全体の振興にも寄与すると思う。
- ・霧島地域においては、既に北きりしま田舎物語推進協議会による農家民泊や、環霧島地域周遊列車おもてなしツアーなど、地元の自治体を中心に日ごろから連携して先導的な取り組みを行っている。
- ・具体的な施策の実施については、関係団体との連携が必要不可欠であるため、構成員の皆様には、ぜひとも積極的なご協力をお願いしたい。

○鹿児島県観光林務部長 挨拶

- ・プロジェクトの実施個所として霧島錦江湾国立公園が選定されたことについては、自然景観や温泉などのポテンシャルや歴史、文化、食などの地域資源とともに、これまでの自然保護や観光振興などに取り組んでこられた地元の方々の熱意が評価されたものと理解している。
- ・霧島錦江湾国立公園の利用者数については、平成 4 年をピークに減少傾向にある。一方、近年県内の外国人宿泊者数は増加しており、今後の国立公園への外国人利用者の増加も期待できる。
- ・今後、環境省、宮崎県、鹿児島県、関係地元市町村、民間事業者がこれまで以上に連携を深めていければよい。どうぞ宜しくお願いします。

○環境省九州地方環境事務所事務所長 挨拶

- ・四月の熊本地震においては、多方面よりご支援いただいたことを感謝申し上げたい。観光の面でいうと、九州全体が一時非常に落ち込んでしまったということもあり、そのようなことから九州はひとつであるということを感じた。
- ・地震からの復興や九州を一体化していくということも踏まえ、南北を軸として阿蘇くじゅう国立公園と霧島錦江湾国立公園を選ばせていただいた。これらのエリアを力強く立ち上げることによって、九州全体の観光を盛り上げていきたい。
- ・本プロジェクトは、明日の日本を支える観光ビジョンに挙げられている 10 本の柱の一つとして始められている。世界水準のナショナルパークとして国立公園を磨き上げることによって、インバウンドによる利用を、日本全国では 2020 年までに 4,000 万人にすることが目標となっているが、そのうち 1,000 万人をひきつけられるような魅力のある国立公園にしようというものである。
- ・選定されたモデル地域においては、先行的に集中的に投資を行う。目的はインバウンドへの対応であるが、もう一つの目的は質の高いサービスを提供していくということである。これまでにない大胆な発想を持って取り組んで参りたい。どうぞ皆様の忌憚のないご意見とご協力をお願いしたい。

○霧島市長 挨拶

- ・各市町村において 9 月議会の忙しい時期に、両県にまたがる関係する地方自治体、諸団体が一同に集まることは大変厳しいことであると思うが、8 地域の中でトップを走っていく気概でやっていきたい。
- ・本プロジェクトでは、80 年の国立公園活動の中でこれまで踏み込むことのできなかった課題に対して、両県境、市町村境、またそれぞれの壁を乗り越えて、取り組んでいく大きなチャンスをいただいたと思っている。国づくりの神話の舞台である霧島地域、そして桜島の錦江湾とともに、地域の持つポテンシャルを掘り起こし、連携を高めながら前に進め、地元の情熱が結実することを祈っている。
- ・今回の事業は、ハードもソフトにもしっかりと取り組むと環境省より伺っている。国交省、観光庁、環境省等省庁においても横の連携も強化していただき、我々も地域に耳を傾けながら、それぞれ役割を果たしていければよい。

■協議会の設置について

○事務局から資料 1-1、1-2 に基づき説明。

【鹿児島市】

- ・地域部会の名称について、錦江湾奥地域部会となっているが、鹿児島市としては桜島という言葉を出したい。桜島・錦江湾奥地域部会に変更できないか。

【霧島市】

- ・霧島市は、山岳の国立公園のエリアと海側の桜島錦江湾の国立公園のエリアと両方にまたがる唯一の自治体になるため、構成については、両方の部会の兼任をさせていただきたい。

■議事

議事（１）国立公園満喫プロジェクトについて

○環境省から資料２－１、２－２、２－３に基づき説明。

【霧島市】

- ・我々にとって一番関心があるのは予算。自然環境の保全、保護はもちろん重要だが、世界の国立公園をみると、より自然保護をしながら、上手に利活用しているところもある。そのように日本の国立公園においても利活用に踏み込んでもらいたい。利活用を進めるにあたり、環境省ではどれほどの予算があるのかご教示いただきたい。

【環境省】

- ・資料２-２にある通り、今年の補正予算として約１０３億円、来年度を通しては約１０１億円を要求している。

議事（２）九州インバウンドの動向について

○九州運輸局から資料３に基づき報告。

※質疑無し

議事（３）について

○事務局から資料４、参考資料（新聞記事）に基づき説明。

議事（４）について

○事務局について口頭にて下記の通り説明

- ・霧島錦江湾国立公園において満喫プロジェクトを推進していくためのターゲット設定やコンセプト、取り組む課題について、本協議会で話し合いたい。各事項については、事務局会議での検討や、今後設置する３つのワーキンググループにより議論していくことにしているが、上質で自然と調和した宿泊・滞在拠点の整備と、それらを中心とした自然景観の徹底した改善、大自然の中に身を置き体験できるような大胆な利用の拡大に向けた取り組みを各省、地元関係者と連携して進めることとしている。
- ・その中で、環境省としてはＩＴを活用した情報提供の実施や、ビジターセンター・歩道等の再整備を行うほか、国立公園ならではの観光資源の素材発掘、統一ブランドイメージに基づく海外プロモーション等を検討している。
- ・環境省による直轄整備の対象地としては、所管地やえびの、高千穂河原、指宿などの集団

施設地区になると考えている。

- ・なお、本プロジェクトは地元の熱意をくみ取り推し進めていくものであり、地元への支援として、県・市町村等へ、満喫プロジェクト等推進事業の交付金として整備費 1/2 の補助などの事業がある。これ以外にも観光庁の交付金、その他省庁の事業を活用しながら、地元と一体となって事業を進めていきたい。

【宮崎県】

- ・同県では3つのビューポイント「えびの高原」「夷守台」「御池・高千穂峰」を提案させて頂いた。地域のストーリーと合わせて観光資源を魅せていくには、ポテンシャルのある地域であると思っている。しかしながら、宮崎からえびの高原までには、定期バスが毎週1便しかない、また宿泊施設の不備等の課題も抱えている。この3つの地域と鹿児島県の高千穂河原等を観光客が周遊できるようなアクセスをぜひ作り上げたい。

【鹿児島県】

- ・スケジュールについては、年内にステップアッププログラムを提出するという事となっておりかなり厳しい。協議会のメンバーには是非とも覚悟を持ってご協力いただきたい。
- ・整理すべき問題としては、まずは、霧島錦江湾国立公園のブランドを固めるストーリー性のあるコンセプトを作ることが求められている。鹿児島県では多彩な自然、火山や温泉、歴史などに関連する観光資源が豊富にある。霧島地区については、天孫降臨の神話など地域の歴史や神社をうまく組み合わせながら、ブランドに変えていくことが大事ではないか。ターゲットについては、東アジアからの客が増えているが、集団としてくるか個人としてくるかなど多様な旅行形態について、どう対応していくか。アクセスルートの整備については、環境省からはなるべくすっきりとした景観が求められているように思う。利用拡大については、特にビューポイントをどのような形で設定するかが重要。えびの高原、高千穂河原、指宿、桜島ということになるのではないかと思うが、地域部会、ワーキンググループの中で大いに議論していきたい。

【環境省】

- ・補足であるが、環境省としては施設整備やソフトの面での調査事業等も予定している。それ以外にも、国立公園の仕組み上、民間の方々にもどのように協力していただくかという話もあるので、地元の市町村の方々の役割も重要になってくる。説明の中にもあった1/2交付金による施設整備というのは、県だけでなく地元の市町村の方にも使ってもらえることになっている。また、国立公園内のさまざまな施設は、国・県・市町村・民間の施設等があるので、それぞれの立場で色々な仕組みを活用しながら、よりよい取り組みにしていきたい。

【鹿児島県観光連盟】

- ・ステップアッププログラム 2020 で挙げるべき項目として、ビューポイントの設置や宿泊施設の誘致、新たなサービスなど時間のかかるような項目が入っているが、果たして 12 月までに完成できるだろうか。ある程度の方向性を示すにとどまるのではないかと思うが、どの程度の仕上がりが求められているのか。
- ・ビューポイントについても、人によってイメージしているものが異なるのではないかと思う。イメージだけでもよいので次のことについて教えていただきたい。
- ・ビューポイントとは、展望スポットをイメージしているのか。国立公園はかなり規制がかかっているが、規制緩和も視野に入れているのか。歩道の整備について、既存のルートの再整備や新規の遊歩道の整備は容認するのか。ルート沿いの景観障害物の撤去に当たっては、樹木の伐採も容認するのか。

【環境省】

- ・ビューポイントについては、ややこしい表現となっているが、カッコ書きで重点取組地域とあるように、展望施設というよりはもう少し広いエリアを想定している。まずは、取り組みを重点的にやっていくエリアを決め、そこをビューポイントと呼んでいる。
- ・宿泊施設の誘致等における規制緩和については、現状としてはそこまで踏み込んだ話は想定していない。今の枠組みの中でまだできることがたくさんある。例えば、公園計画の利用施設計画を柔軟に見直していくという考え方もある。まずはそういう点を含めて考えてもらいたい。
- ・歩道の整備については、もちろん既存のルートの再整備はあると考えている。また、新規の遊歩道の設置については、場所によると考えている。最初から否定をすることはないが、魅力的なポイントについて、地域の合意が得られ、自然環境への影響も少ない、ということであればあるのかと思うが、場所ごとに判断しなければならないと思っている。
- ・ルート上の障害物（自然物）についてだが、維持管理の中で安全を確保しなければならないので、危険なものについては除去しなければならないと考えている。

【環境省】

- ・このスケジュールで提出できるのか、地方環境事務所においても不安に感じているところもある。ステップアッププログラムは、それをきれいな形で提出することが目的ではなく、2020 年時点のインバウンド利用に向けて着実に前進していかなければならず、その過程であると考えている。つまり、ステップアッププログラムについては、途中過程のものでも構わないと考えている。項目によっては熟度の差がある中で、いかに短期的に効果をあげるような戦略、加えて中期的な将来につながるようなことを同時に念頭に入れながら作成しなければならないため、かなりあら削りな部分が残っていても仕方がない。今後展開していく上で、修正・追加するものとしてとらえていただければと思う。

【鹿児島市】

- ・桜島錦江湾奥部会を考えたときに、プログラム作成という観点で行くと、個々の地域はジオパークとして大まかな計画が既にあるため、また、方向性についてはほぼ同じだと思うので、不可能なことはないと思う。ただし、これまで錦江湾ジオパークなどで作成してきた計画は、できる範囲のことだけを組み込んでいたが、これからは国が絡んでくれることで、これまで諦めていたことや、後回しにしてきたことに取り組むことができるのでは
- ・具体的に言うと桜島周辺の Wi-Fi の整備については、これまで費用対効果が分からないため踏み込むことができなかった。また、アクセスのためのバス整備や、錦江湾の海側の利用促進についても、取り組むことができなかった。
- ・部会はどのようにスタートするのかを教えてください。

【環境省】

- ・霧島錦江湾については、霧島部会では宮崎県。残り二つの部会については鹿児島県を中心に進めていきたいと考えている。詳細が決まった時点でお知らせしたい。

【小林市】

- ・決められたスケジュールの中で効率的に進めていくためには、メンバーの方向性、コンセプトを合わせる事が重要であるので、協議会ではその辺を示していただきたい。
- ・インバウンド受け入れについては、インバウンドの消費者目線で戦略を練ることが必要。遠方からの観光客を呼ぶためには、しっかりとしたイメージや戦略、特にプロモーションが重要であり、環境省にもどのようにしていくのか示してほしい。基本的に海外からの観光客は、Twitter や Web サイトを調べて来る。ヨーロッパではそれぞれの地区にて観光推進部隊のようなものがあり、観光客がどこで何をしたいのかということに応じて、それぞれのサイト作りを行っている。プロモーションの方法については、観光庁が中心となって研究されていると思うので、ぜひとも知見を借りたい。
- ・スケジュールについては、2020 のオリンピック・パラリンピックに向けてというのも大事であるが、2019 のラグビーワールドカップにタイムラインを持っていくことも重要。4万人来ることが想定されており、客層については、富裕者層も多く、消費額も高い、また期間については7週間とかなり長い。

【九州観光推進機構】

- ・インバウンドは九州でも増えているが、福岡市への集中が進んでいるように感じる。その理由としては、国際線が多いこともあるが、個人旅行化が進んでいることが考えられる。
- ・現在鹿児島宮崎を廻っているインバウンドを見ると、その二つの空港を利用した周遊が多くなっていると思うが、この度、縦のラインができたことで、福岡空港と鹿児島・宮崎を

結ぶ流れをもっと太くしていくことが重要だと思っている。霧島錦江湾の魅力の本プロジェクトで深めていくことで、今後縦の流れも促進したい。

- ・個人旅行化が進む中では、JRやレンタカーの整備もあると思うが、十分に国立公園を楽しんでもらうためにはきめ細かでない部分もあると思うので、地元の意見も含めてアクセスを改善していく必要があると思う。

【南大隅町】

- ・南大隅町では国、県のご協力のもと国立公園内の佐多岬の開発を行っている。昨日も31度ラインの除幕式も行ったところである。国立公園内ということで様々な規制があり、地元の思うように進まないこともあったが、本プロジェクトでは、自然環境を壊すことなく、上手く規制緩和が図ればよい。

【宮崎観光コンベンション協会】

- ・地域が何を売りたいのか、発信したいのかということをしっかりとりまとめていく意味では、本プロジェクトはとてもいい機会だと考えている。我々も含めて各地域の本気度が試されると思っているので、しっかりと協力したいと考えている。

【指宿市】

- ・指宿市では、知林ヶ島、長崎鼻、開聞岳、池田湖というように、海・山・湖といろんな形で国立公園に指定されている。現在の取組としては、知林ヶ島において潮が引いた時に現れる800mの道を、ちりりんロードと命名して、何とかインバウンドの客を引き寄せようとしている。ただし、ちりりんロードは3月～10月しか現れず、時間帯も限られている。年間2.5万～3万来客があるが、ほとんどは砂蒸しが目的である。知林ヶ島の手前にビジターセンターのような施設を設立し、島の情報を提供したり、ロードを渡る際の安全確保などに取り組めたらいい。集団施設地区でもあるので環境省と一緒に取り組んでいきたい。

■閉会

○環境省九州地方環境事務所事務所長 挨拶

- ・地元の熱意を示していただいたと共に国の取組への激励を頂いたと感じている。アメリカ型ではなく日本型の国立公園を目指すに当たり、日本の国立公園制度の特徴としては、公有地と民有地が混在し、利用だけでなく産業も重なっているのが特徴であり、強みでもある。つまり多様な主体による発想、連携が可能であり、それを深めていける点である。各地域で既に動いているものも多いため、それを中心に高めていくことでステップアッププログラムを作っていければと思う。どうぞよろしく申し上げます。

別紙：出席者（敬称略）

九州森林管理局	計画保全部長	吉永 俊郎
九州運輸局	観光部長	伊地知 英己
環境省	自然環境局国立公園課 課長補佐	河野 通治
環境省	九州地方環境事務所長	北沢 克巳
宮崎県	環境森林部 技術次長	那須 幸義
鹿児島県	環境林務部長	東條 広光
都城市	みやこんじょPR課 主査	松下 孝史
小林市	観光政策参与	矢野 雄二郎
えびの市	観光係 主事	森高 諭子
高原町	まちづくり推進課	横田 秀二
鹿児島市	環境局 局長	山口 順一
指宿市	観光課 課長	今柳田 浩一
垂水市	水産商工観光課 観光推進係長	大迫 隆男
霧島市	市長	前田 終止
始良市	企画部 商工観光課 観光係長	坂下 晴彦
湧水町	商工観光課 課長補佐	福寿 裕臣
南大隅町	企画観光課 補佐	川田原 孝二
(一社)九州観光推進機構	海外誘致推進部長	坂本 久敏
(公財)みやざき観光コンベンション協会	専務理事	富高 敏明
(公社)鹿児島県観光連盟	専務理事	白橋 大信